

基本構想に関する資料

【第五次太宰府市総合計画策定趣旨】

第四次太宰府市総合計画の計画期間が平成22年度で終了することに伴い、時代の潮流や市民の意識を把握しながら、市民によりわかりやすくするために具体的な成果指標を掲げた計画の策定を目指しました。

第五次太宰府市総合計画の将来像「歴史とみどり豊かな文化のまち」を実現するため「市民との協働によるまほろばの里づくり」をまちづくりの理念として、6つの目標を立て35の施策を実行し、市民生活の向上を図ります。

【第五次太宰府市総合計画策定背景（時代の潮流）】

- ・人口減少社会
- ・少子・高齢化
- ・地方分権（地域主権）
- ・新しい公共
- ・人権の尊重
- ・環境共生社会

【太宰府市の現状】

各施策における現状については、それぞれの現状と課題に記述しております。

なお、〔資料4〕第五次太宰府市総合計画策定のための市民意識調査 38 ページにもあるように太宰府市が将来どんなまちになって欲しいかを尋ねたところ「歴史や伝統に育まれた教育と文化のまち（文教都市）」が 49.8%と最も高く、次いで「生活環境が整備された住宅を中心としたまち（住宅都市）」40.3%、「自然や文化遺産・

九州国立博物館を生かした観光施設の整ったまち（観光都市）」38.5%と続いている。これは、平成10年度に実施した第四次太宰府市総合計画策定時と同様の結果が見られています。

また、同資料の39ページにあるように将来望ましい土地利用について尋ねたところ、第四次での調査に比べて低層居住型が最も高いことに変化はないが、商業居住共存型やレクリエーション・空間型などが伸びており、身近に商業地や憩いの場などを求める人が増えています。

同資料の6ページにあるように具体的な施策では、防災や防犯、高齢者・障害者福祉、子育て支援、環境問題に優先して取り組むべきという意見が上位を占めており、これは職員が職務の中で知り合った市政に関心がある120人に対して実施した〔資料5〕市民100人インタビュー調査48ページにおいても同様の結果が見られています。

しかし、〔資料6〕第五次太宰府市総合計画策定のための職員意識調査25ページでは、子育て支援、健康づくり、人材の育成、福祉の充実などが上位を占めており、職員は健康づくりなどの予防や職員の人材育成が必要などの一部市民意識との乖離が見られます。

これらのように、将来像などについては歴史や文化など市全体に関わる意見が多く、具体的な施策になると身近な生活に関する意見が多くなるという現状が見られます。

【第四次太宰府市総合計画の主な変更点】

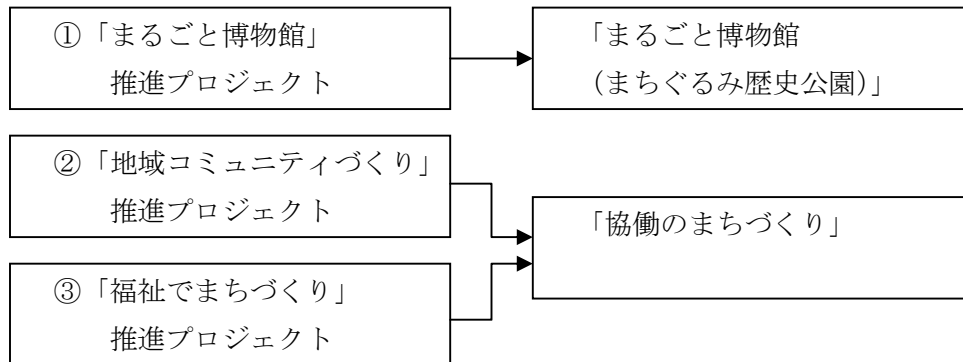
①プロジェクトの位置づけ

(第四次総合計画)

(第五次総合計画 (案))

戦略プロジェクト

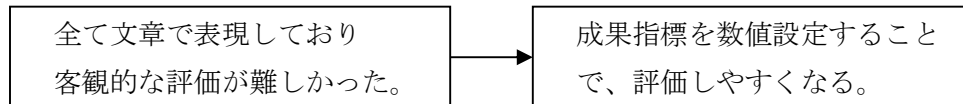
各施策に共通する基本的考え方 (理念)



②成果指標の導入

(第四次総合計画)

(第五次総合計画 (案))



アウトプット (行動)

アウトカム (成果)

例. 体育館を建てた。

例. 体育館を建てたことでスポーツをし
て健康になる人が増えた。